

## 2008年 年頭所感

石油化学工業協会  
会長 米倉 弘昌

2008年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、年頭にあたりご挨拶申し上げます。

我が国経済は堅調な企業の設備投資や好調な輸出を背景に息の長い拡大基調を続けております。経済のグローバル化が進む中、原油価格の上昇、米国のサブプライムローン問題が我が国経済に与える影響等、懸念材料もございますが、我々企業の努力とそれを支える税制や法制度の見直し、規制改革などが相まって、今後も力強い経済成長が実現できることを期待しております。

昨年の我が国の石油化学産業は、国内外の堅調な需要に支えられ原料価格の高騰にも拘わらず全体的に好調な業績を維持することができました。

高水準の原油価格の影響が懸念されること、アジア近隣諸国における石油化学製造設備の能力増強が進み一部本格稼働が始まっている状況等にも注目していく必要が有りますが、本年も、業績が安定的に継続するよう期待しております。

製造業である石油化学産業にとって、「保安・安全の確保」が、最も重要な要件の一つであることは言うまでもございません。保安は地道な活動の積み重ねであり、技術力を向上させ一步一步確実に実行することが重要であります。当協会会員各社がそれぞれ保安の確保に真剣に取り組むとともに、当協会としても、保安研究会、保安推進会議等を通じて運転技術、設備管理技術の向上を図り、その基礎となる安全文化の醸成に努めてまいります。昨年末のエチレン製造設備の事故については大変残念なことでありますが、会員各社としても一層気を引き締めてこうした事故が起こらないよう万全の対策を講じて参る所存です。

協会は、アジアの石油化学産業の健全な発展に寄与するため、昨年台湾でA P I C（アジア石油化学工業会議）2007を共催し、1000名を超える参加を得て海外の石油化学企業、協会・団体との連携を進めるとともに参加各国間のビジネス推進、活発な情報交換の場とすることができました。本年も5月にシンガポールでA P I C 2008を共催いたします。

日本経済のグローバル化が進み、厳しい国際競争に直面している我が国石油化学産業が更に成長発展していくためには、国際競争力の基盤強化が必須です。協会としても、税制上のイコールフットイング、人材育成等の分野で取組みを進めております。

一方地球温暖化等の環境問題に目を向けますと、昨年12月にはCOP13会議がインドネシアで開催され、京都議定書に続く地球温暖化対策の在り方が精力的に追求されております。地球温暖化問題の解決に向けて、石油化学業界として省エネルギーを推進していくことが最も重要と考えており、このための技術開発の実現に向けて活動を開始いたしました。今後、これが地球温暖化問題解決の一助となることを願っております。

石油化学工業協会は、今年、創立50周年を迎えます。社会の一員として、豊かで暮らしやすい社会の実現に向け、コンプライアンスはもちろん、安全、環境保全、消費者ニーズの充足といった観点から石油化学産業が果たす役割と重要性を広く社会の皆様にご理解いただくよう努めてまいりたいと存じます。

今後とも、協会活動への一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。